

大会時・コロナ禍での取組

- ・2020年当初：東京2020大会に伴う人流の増加によって出勤時に影響が出ると想定されたためテレワークを検討開始
- ・2020年3月：最初の緊急事態宣言以降、全社的にテレワーク加速

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリパラ コロナ禍

- テレワーク・・・本社実施率約7割
- オフピーク通勤・・・通常の出勤時間に前後1時間の幅を設けて実施
- 有給休暇の計画的な取得促進・・・既存の制度を促進（例年、有給休暇を5日間取得することを義務付け）

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリパラ コロナ禍

- 大会時に予定する取組を事前に試験的に実施
東京2020大会の交通対策等のテスト実施期間
 - ・本社と23区内にある事業所間の往来の削減
 - ・メール便等の削減
 - ・物品のまとめ発注等を試験的に実施
（大会期間中は無観客開催のため未実施）

取組ポイント

- テレワーク導入時に出勤率の目標設定
- 東京2020大会中に計画休暇を取得するよう推奨

取組ポイント

- 事前にリスクを検討し、試験的に対策を実施

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク・・・コロナウイルス感染状況に応じて実施率は変動、WEB会議の推奨
- オフピーク通勤・・・外勤職は直行直帰も推奨
- 有給休暇の計画的な取得促進

物の流れ

- 物流量の調整・・・ペーパーレスの促進による事業所間の配送の削減、物品のまとめ発注の推奨

【東京2020大会を振り返って】

- ・本社ビルがオリンピックスタジアムに近いこともあり大会スケジュールから周辺の混雑度を推定することができた。
- ・東京都からの各種情報については、東京2020大会期間中における各駅の大会輸送影響度マップを社内で共有した。
- ・東京2020大会前の説明会にも参加して、交通規制の把握もできていたため、大会期間中に困ることはなかった。
- ・無観客開催であったため、通勤や業務への影響はなかった。